

競技注意事項

1. 本競技会は2022年日本陸上競技連盟規則と本大会申し合わせ事項によって行い、大阪インターハイ(中央大会)出場者の決定は、葦音143号・221頁の記載通りに行う。

選手は競技開始2時間前より競技場に入場することができる。ただし、開場から2時間以内に競技開始となる種目については、競技者係の入場受付準備が整い次第の入場とする。

本大会は無観客で行う。

競技中以外はマスクを常時着用すること。(競技前などについては競技役員からの指示に従うこと)

2022年1月1日にWA競技規則TR5の改正と、新たな「競技用靴に関する規定」に基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、競技役員はいつでもシューズチェックする権限を持ち、参加者はその指示に従わなければならない。競技後シューズの違反が認められたときは、「失格扱い」となり、記録が取り消される場合がある。(スパイクピンのチェックは1次招集時に行う。)

【靴底の厚さに関する規定(TR5.13.3)表】

種目	靴底最大の厚さ TR5.5、TR5.13.3	要件・備考
フィールド競技(除:三段跳)	20mm	投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、800m未満の種目)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、800m以上の種目)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 (競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは40mm)
競技場内で行う競歩	40mm	
道路競技(競走・競歩)	40mm	

※ただし、フィールド競技用シューズについては、上記の規定適用を除外する。

2. 招集(コール)について

(1)競技開始2時間前～1時間前(棒高跳のみ1時間30分前)に「健康状態申告兼体調管理チェックシート」をメインスタンド下室内練習場内に設ける受付場所にて提出し、スパイクとアスリートビブスの確認を受け、トラック種目は腰ナンバーカードを受け取ることで一次招集完了とし、現地で二次招集を行う。なお、100m及び200mの決勝レースについては、現地コール時に腰ナンバーカードを配布する。

(2)二次招集(現地)時間は以下のとおりとする。

招集時間	トラック	跳躍	投てき	棒高跳
開始時刻	15分前	50分前	50分前	70分前
完了時刻	10分前	40分前	40分前	60分前

トラック種目の現地集合は、密を避けるため、競技開始20分前にすること

また、競技前練習は密を避けるために競技役員からの指示に従うこと。

(3)一次招集・二次招集(現地)に遅れた競技者は欠場したものとして処理する。

(4)欠場する場合(受付後に欠場することになった場合も含む)は、欠場届を競技開始60分前までに競技者係へ必ず提出すること。(用紙はHPにあるものをダウンロードして利用する)

(5)多種目を同時刻に兼ねて出場する競技者は、事前に本人が招集所にある「多種目同時出場届」に必要事項を記入し、60分前までに競技者係へ提出すること。その場合に限り現地招集での代理人点呼を認める。

(6)リレーのオーダー用紙は、競技開始の90分前までに競技者係に提出すること。

(用紙はHPにあるものをダウンロードして利用する)

(7)混成競技(八種競技・七種競技)は、両日とも最初の種目のみ招集所で点呼を受け、以後の種目は、混成競技係が指示する時刻に現地で点呼を受けること。

(8)多種目同時出場届・欠場届は招集開始時刻までに招集所の競技者係まで提出すること。

3. アスリートビブス 必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。

トラック種目では腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。

なお、腰ナンバーカードは主催者側で準備する。

4. 運営方法

(1)トラック種目では、100mと200mは予選を行い、その記録上位48名で各6組の決勝を行う。それ以外の種目はタイム決勝とする。100m・200m予選で48番目の記録が、1/100秒まで同タイムの時は、1/1000秒の単位で判定する。それでも判定できない時は抽選とする。100mにおいては、男子は1着+20名、女子は2着+10名が決勝に進出できることとする。200mにおいては、男子は2着+4名、女子は3着+9名が決勝に進出できることとする。

(2)800mは原則として1レーン2名でスタートし、120mでオープンとする。

(3)ラスト1周で5000mでは19分、3000mでは14分、3000mSCでは12分、男子5000mWでは33分、女子5000mWでは37分をこえる選手は、競技を打ち切り、次の周回には入れない。

(4)男子5000m・女子3000mはグループスタートで行い、120mでオープンとする。

(5)フィールド競技においては、トップ8を行う。

(6)バーの上げ方

走高跳 男子1.50(練習) 1.50-1.55-1.60-1.65-1.70-1.75-1.80 以降3cm ずつ

女子1.20(練習) 1.25-1.30-1.35-1.40-1.45-1.50 以降3cm ずつ

八種競技 1.35(練習) 1.40-5cm ずつ-1.75 以降3cm ずつ

七種競技 1.15(練習) 1.20-5cm ずつ-1.45 以降3cm ずつ

棒高跳 男子2.80(練習) 2.80-3.00-3.20 以降10cm ずつ

女子2.00(練習) 2.10 以降10cm ずつ

(7)フィールド競技の試技制限時間

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	2分	3分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技

※※単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数に関係なく適用し、

走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

(8)走幅跳・三段跳 1組はトラック側(A)ピット、2組はスタンド側(B)ピットで行う。

(9)走幅跳の測定ラインは、男子5m20・女子4m20とする。三段跳の測定ラインは、男子11m00、女子9mとする。

ただし、走幅跳・三段跳とも、1回は全員計測する。

(10)投てき競技はすべてフィールド内で行う。いずれの種目の投てき練習も競技場所に入ってから審判員の指示に従って行うこと。これ以外の投てき練習は禁止する。

(11)各自が持参した投てき用やりは検定を受けて使用する。(競技開始90~60分前までに器具庫前に持参すること)

(12)投てき競技の滑り止めについては、主催者は準備しないので、個人で持参すること。

5. 表彰 各種目6位まで賞状

(1)決勝がある100m・200mの表彰は順位優先とし、各組1位の者を記録順に1位から6位とする。

(2)リレーの賞状は1校5枚とする。

6. 補助員 8:00集合(正面スタンド前走幅跳ピット中央付近)

4日・5日両日共、参加人数が5～9人以内の学校は1名、10～19人は2名、20人以上は3名出すこと。
清掃をお願いする学校には、大会総務より依頼校へ事前に連絡が入る。

7. 付き添い者(マネージャー等)

入場人数は、参加人数が10人以下の場合は10人まで、11人以上は20人までとする。
受付時に体調管理チェックシートを提出し、入場許可証を受け取ること。(再入場の際必要)

8. その他

(1)競技会開始前のトラックでの練習については、次のレーン区分を守り、周囲の動きに十分注意して行うこと。
マーシャル役員の指示に従い、練習は競技開始30分前までとする。

1日目(5/4)

長距離用周回練習(ジョグも含む):1・2レーン
直線での短距離練習:ホームストレート 4・5・6・7レーン
コーナーからの短距離練習:バックストレート 4・5・6・7・8レーン
100mHの練習はホームストレート 8レーンで行う。ただし混成競技出場者に限る
※バトンパス練習は禁止。

2日目(5/5)

長距離用周回練習(ジョグも含む):1・2レーン
直線での短距離練習はバックストレート 6・7・8レーン
コーナーからの短距離練習:バックストレート 4・5レーン
100mH: 5・6レーン、110mH: 7・8レーンとする。

(2)ホームストレートのみを使用してトラック競技が行われている際は、バックストレートを練習スペースとして開放する。
ただし、投てき競技や跳躍競技の進行の妨げにならないように留意すること。

(必要に応じて、競技役員により使用可能区域を制限する)

(3)4日(祝・水)・5日(祝・木)両日もサブグラウンドはアップ場として開放する。

(4)競技者としてのマナーを守る。本部前は生徒の通行は原則禁止です。ゴール後は本部前を通らずに戻る。

また、トラック周囲を通行することは競技の妨げになるので、スタンド通路を通行すること。

(5)ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技区域内で所持または使用してはいけない。

(6)フィールド芝生内への立ち入りは競技役員、補助員のみとする。

(7)メインスタンドには部旗・のぼり等を掲げない。テントはメインスタンドおよびバックスタンド中段通路より上で、屋根のない所に設置する。

(8)貴重品・私物の管理は各校で責任を持つこと。盗難には十分に注意すること。

(9)ケガ人が出た場合、本部で応急手当は行いますが、その後は各校顧問で処置して下さい。

(10)ゴミはすべて持ち帰ること。

(11)駐輪禁止:点字ブロック周辺・正面階段前には自転車を止めないこと。

(12)ハードル競技の準備・撤収については、審判業務中でない競技役員も補助員とともに行う。

(13)本大会の結果については、ラウンドおよび上位大会進出に関わるものを除き、掲示は行わない。

大阪高体連陸上競技専門部 web に随時アップデートするため、各自確認すること。

第75回大阪高等学校陸上競技選手権大会(中央大会)について

1. 地区予選会(今大会)にエントリーしない者は中央大会に出場できない。
2. 種目にエントリーした選手のうち、シード権(葦音記載の各種目昨年度ランキング8位以内の者に与えられる。ただし、競歩・混成・女子[三段跳・棒高跳・ハンマー投]は6位以内の者とする)を行使した場合は、今大会に出場できないため、参加料を顧問に返金する。
3. 今大会各種目の上位24名が中央大会に出場できる。(女子の棒高跳・三段跳・ハンマー投は上位16名)
ただし、次の種目は以下の規定に従って中央大会に出場できる。
 - ・100m・200mは今大会の決勝の各組上位4名とシード選手
 - ・4×100mRは今大会にエントリーしたチームすべて・4×400mRは今大会の記録上位32チーム
 - ・競歩は、3・4地区も合わせた全体で記録上位者とシード選手の合計30名
 - ・混成競技は、3・4地区も合わせた全体で記録上位者16名とシード選手
(混成競技・競歩の中央大会出場者は、判明しだい連絡する)
 - ・女子の棒高跳、三段跳、ハンマー投は1・2地区で上位16名、3・4地区で上位16名の合計32名とシード選手
 - (1)トラック競技で、24位(4×400mRは32位)の記録が1/100 秒まで同じ場合は、1/1000 秒の単位で判定する。それでも判定できない時は抽選とする。フィールド競技で24位の同記録が複数の場合は抽選とする。
 - (2)出場の可否は、決勝記録の発表(放送・掲示・大阪高体連陸上競技専門部 web)で確認すること。
今大会中に改めての連絡はしない。
今大会各種目の申込人数が24名以下の種目(4×400mRは32チーム以下)にエントリーした者は、全員(全チーム)が中央大会に出場できる。競技において欠場・コールもれ・失格などがあっても出場できる。
 - (3)3・4地区の地区予選会のエントリー数が中央大会の出場規定数に不足する種目がある場合は、1・2地区予選会の25位以降からその不足分を補充する。
4. 中央大会の出場辞退について
 - (1)決勝記録の発表後、本大会中に地区主任に辞退届を提出すること。なお、提出後の変更は、一切認めない。辞退届の提出なき場合は出場する意志があるものとする。
 - (2)辞退届が提出された場合は、25位以降の者から補充する。ただし、決勝を行う100m・200mは、決勝各組5位の者で記録上位の者を補充する。(1/100 秒まで同タイムの時は 1/1000 秒の単位で判定し、それでも判定できない時は抽選する)また、フィールド競技で25位が同記録の場合は抽選を行う。
5. リレーメンバーの変更について
中央大会に出場するリレーのエントリーメンバーを、今大会のエントリーから変更する場合は、今大会終了までにリレーメンバー変更届を地区主任へ提出すること。(変更のある場合のみ提出すること。変更のない場合、提出は不要。)
6. 中央大会の出場者への連絡文書を、5月18日(水)を目途に、顧問あてにメール送信する。
7. 各校は参加選手一覧表を男女別に作成し、校長印・顧問印を押印の上、5月28日(金)の学校受付時に提出すること。
また、参加料(個人種目1種目500円 混成種目1000円 リレー1種目1000円)を、地区予選時に配付する振込用紙で5月24日(火)までに振り込むこと。その際、学校番号等、振込用紙に記載必要な項目はすべて記入すること。
8. 中央大会の日程
5月27日(金)・28日(土)・29日(日) 9時30分競技開始 ヤンマーフィールド長居

◎本大会で使用した個人情報につきましては、本大会の目的以外に使用することはありません。